

## 瓢湖におけるキンクロハジロの標識調査について

○本間隆平・千葉晃・白井康夫 (瓢湖鳥類標識グループ)

「白鳥の湖」として有名な新潟県瓢湖でカモ類の標識調査をはじめて以来、16 シーズンが経過した。調査開始当初はオナガガモを中心に捕獲・放鳥作業を実施し、その後、ヒドリガモを調査対象に加え、さらに 2003/04 年からはキンクロハジロの捕獲を行い、その結果を 2009 年に発表した。今回はその後の成績を追加した調査結果を紹介する。

瓢湖は灌漑用の人造湖 (一辺 400 ㍓ の方形池・8.7 ㍓) であったが現在ではその役目を終え、一本の水路で涵養された水鳥の生息地として重要な役割を果たしている。2000 年には瓢湖に隣接して東新池・さくら池・あやめ池が造成され、4 湖を合わせた 30.4 ㍓ が瓢湖水禽公園となり、さらに 2008 年 10 月、ラムサール条約の登録湿地となった。渡来する主な鳥類は、ハクチョウ類 5,000 羽とカモ類 15 種 15,000 羽でカモ類は最近減少傾向にある。

キンクロハジロは 10 月に渡来し最高 300 羽あまりが越冬する。3 月から 4 月上旬にかけて渡去し、その頃余り目立たないが求愛行動が見られる。瓢湖では 1 日 3 回の給餌が行われており、本種の約 80% がこれを利用している。

私たちは流入水と共に流れ込む餌を求めて導水管に入る個体を手製のたも網で素早く捕る方法で作業を実施している。03/04 年から 15/16 年までに 1,200 羽あまりを捕獲し、雌雄や成・幼鳥の形態差、体各部の計測値、回帰率などを調べ、以下の結果を得た。

## 1. 年度別捕獲数と性別及び成鳥・幼鳥について

03/04 年から 15/16 年の間に合計 1,248 羽を捕獲したが、最高は 15/16 年の 136 羽だった。捕獲個体の性比は、雄比率が平均 74% (雌が 26%)、一方成鳥・幼鳥比は成鳥 68% (幼鳥が 32%) だった。

## 2. 回帰率について

再捕獲から求めた 13 年間の平均回帰率は、42.1% だった。多い年 (07/08 年) は 58.0%、少ない年 (04/05 年) は 10.4% で、他の年は 29% から 57% の範囲で変化した。

## 3. 再捕獲間隔について

調査開始から 15/16 年までに 327 羽が再捕獲され、そのうち新放鳥から再捕獲までの最長期間は 11 年で、この事例は合計 3 件あった。

## 4. 瓢湖以外からの回収記録について

本種の国外からの回収はロシアで銃猟による 7 例があるのみで、潜水性で標識調査の対象とらしくいたためか、国内の回収は市川市宮内庁新浜鴨場からの 2 例しか記録されていない。新浜鴨場は本種が多数を標識放鳥されているにもかかわらず瓢湖との関連が少ないのは、本種が越冬期間中に一定の場所からあまり移動しない傾向にあるのかも知れない。

## 5. Rp. について

同一シーズン内に同所で繰り返し捕獲される個体が多く 15/16 年は 136 羽中 49 例、14/15 年は 103 羽中 25 例を認めた。これも瓢湖にいる個体が冬の間当該地に長く留まり、あまり他所へ移動しない傾向を反映した結果かも知れない。